

2018年度第2四半期 決算説明会

東ソー株式会社
2018年11月7日

目次

1. 2018年度の業績動向
2. 設備投資・研究開発の状況
3. 事業戦略について
4. 株主還元

1. 2018年度の業績動向

1-1. 2018年度上期連結業績

〈業績予想比較〉

- 予想：円高(ドル)・原燃料高・ウレタン市況安を前提とした計画
- 実績：円安(ドル)・更なる原燃料高・コモディティ製品市況の変動

			(億円)		
			2018年度 上期予想	2018年度 上期実績	増減
売	上	高	4,200	4,245	+45
営	業	利 益	510	560	+50
経	常	利 益	510	607	+97
純	利	益	350	417	+67
前 提	ドル	円/\$	105.00	110.26	+5.26
	ユーロ	円/€	130.00	129.79	▲0.21
	ナフサ	円/KL	47,000	51,150	+4,150

1-2. 2018年度上期事業分野別実績

〈業績予想比較〉

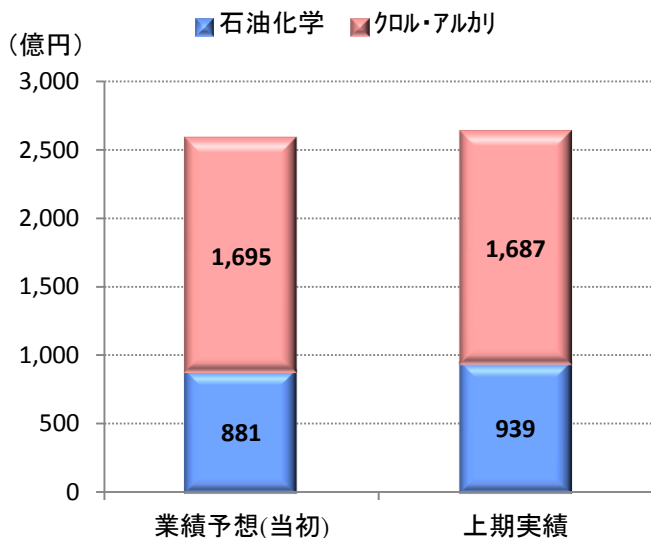
- コモディティ：クロル・アリカ事業の減益を石化事業でカバー
- スペシャルティ：高機能材料製品の販売増等で増益

(億円)

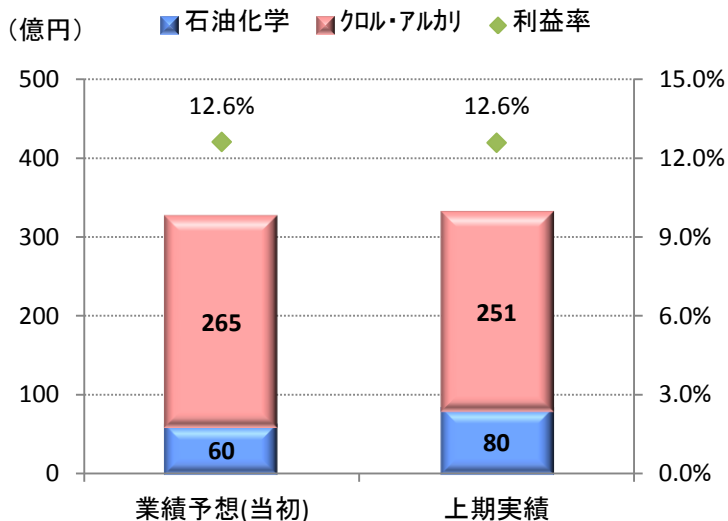
		2018年度 上期予想	2018年度 上期実績	増減
売上高	コモディティ	2,576	2,626	+50
	スペシャルティ	970	984	+14
	エンジン他	654	634	▲20
	合計	4,200	4,245	+45
営業利益／率	コモディティ	325 / 12.6%	331 / 12.6%	+6 / ±0.0%
	スペシャルティ	160 / 16.5%	193 / 19.6%	+33 / +3.1%
	エンジン他	25 / 3.9%	36 / 5.8%	+11 / +1.9%
	合計	510 / 12.1%	560 / 13.2%	+50 / +1.1%

1-3. 2018年度上期実績 / コモディティ

売上高



営業利益



化学品関連市況前提

		16年度実績	17年度実績	業績予想	上期実績
ナフサ	円/KL	34,675	41,925	47,000	51,150
PVC	\$/t	855	860	800-900	918
液体苛性	\$/t	388	560	600-700	464

<苛性ソーダ>

- 中国環境規制による需要の伸び悩み、中東電解稼働上昇による玉流入で販売価格は想定を大きく下回る

<PVC>

- アジア域のPVC需要は堅調に推移し、販売価格は想定を上回るも、国産ナフサなど原燃料価格の上昇で手取りは悪化

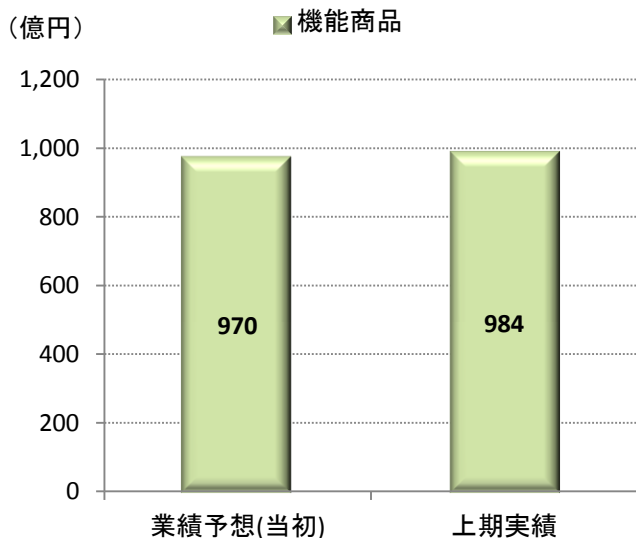
ウレタン関連市況前提

		16年度実績	17年度実績	業績予想	上期実績
MDI(モノ)	\$/t	1,922	2,957	2,500-2,700	3,216
スプレッド	\$/t	1,195	2,143	1,700-1,800	2,367
MDI(ホリ)	\$/t	1,544	2,518	1,800-2,000	2,058
スプレッド	\$/t	817	1,704	1,000-1,100	1,209
ベンゼン	\$/t	727	814	800-900	849

<MDI>

- 各社新設設備の立上がりから、PMDIの需給は緩和し価格下落、想定した価格並み、MMDIは需要の下支えがあり高値を維持

1-4. 2018年度上期実績／スペシャルティ

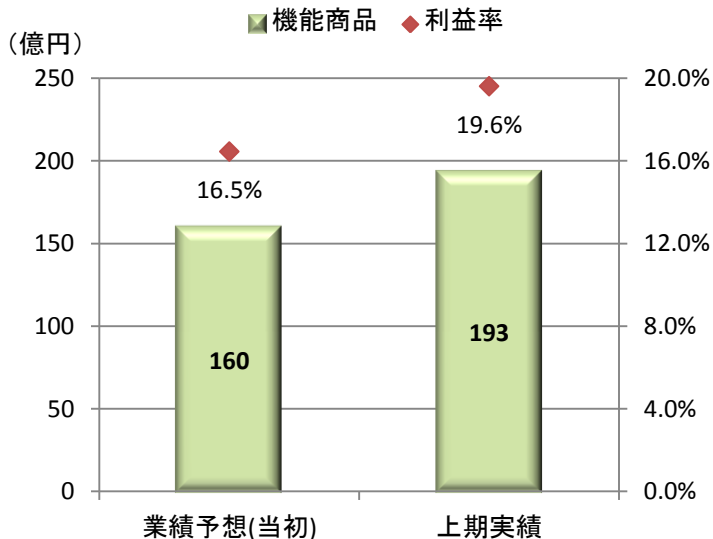


機能商品売上推移

	16年度		17年度		18年度	
	上期	下期	上期	下期	予想	実績
バイオサイエンス	193	224	212	209	215	217
有機化成品	208	229	236	242	235	232
高機能材料	422	482	472	501	520	536
機能商品計	823	935	919	952	970	984

<業績予想>

- シルコニア: 原料価格上昇による利幅縮小
- ハイシリケートホワイト: 顧客認定遅延の影響
- エチレンアミン: 原料高&市況安による手取り悪化



<実績>

- 各事業の販売は堅調に推移
- シルコニア: 旺盛な需要による販売増
- 石英ガラス: 旺盛な需要による販売増
- 為替: ドルが円安で推移

営業利益は、予想に対し33億円増益、利益率3.1%改善

1-5. 2018年度通期予想

〈業績予想比較〉

- 当初:円高(ドル)・原燃料高・ウレタン市況安を前提とした計画
- 修正:更なる原燃料高・コモディティ製品市況の下落を織り込む

			(億円)				
			2018年度				
			上期実績	下期新予想	通期新予想	当初予想	増減
売	上	高	4,245	4,555	8,800	8,500	+300
営	業	利益	560	440	1,000	1,100	▲100
経	常	利益	607	443	1,050	1,120	▲70
純	利	益	417	293	710	760	▲50
前提	ドル	円/\$	110.26	110.00	110.13	105.00	+5.13
	ユーロ	円/€	129.79	130.00	129.90	130.00	▲0.10
	ナフサ	円/KL	51,150	59,000	55,075	47,000	+8,075

1-6. 2018年度通期実績(事業分野別)

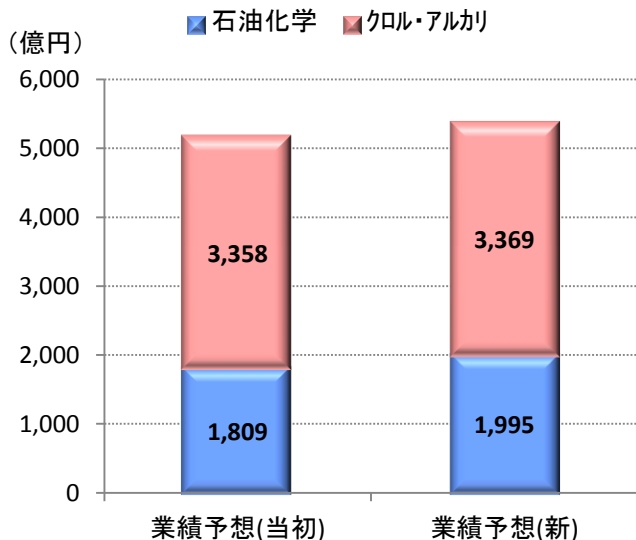
〈業績予想比較〉

- コモディティ : クロル・アリカ製品市況の下落による減益
- スペシャリティ: 高機能材料製品の販売増等による増益

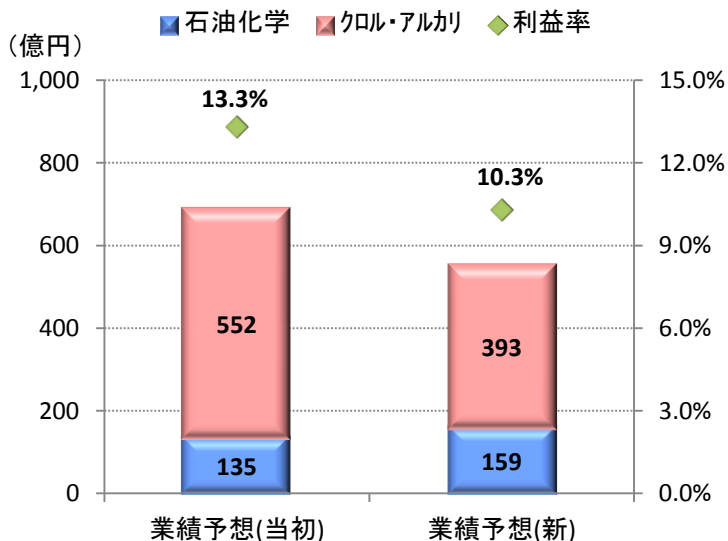
		2018年度					(億円)
		上期実績	下期新予想	通期新予想	当初予想	増減	
売上高	コモディティ	2,626	2,738	5,364	5,167	+197	
	スペシャリティ	984	1,026	2,010	1,942	+68	
	エンジン他	634	792	1,426	1,391	+35	
	合計	4,245	4,555	8,800	8,500	+300	
営業利益／率	コモディティ	331 / 12.6%	221 / 8.1%	552 / 10.3%	687 / 13.3%	▲135 / ▲3.0%	
	スペシャリティ	193 / 19.6%	161 / 15.7%	354 / 17.6%	335 / 17.2%	+19 / +0.4%	
	エンジン他	36 / 5.8%	58 / 7.3%	95 / 6.6%	78 / 5.6%	+17 / +1.0%	
	合計	560 / 13.2%	440 / 9.7%	1,000 / 11.4%	1,100 / 12.9%	▲100 / ▲1.5%	

1-7. 2018年度通期予想／コモディティ

売上高



営業利益



化学品関連市況前提

		業績予想	上期実績	通期新予想
ナフサ	円/KL	47,000	51,150	55,075
PVC	\$/t	800-900	918	800-900
液体苛性	\$/t	600-700	464	400-500

<苛性ソーダ>

- 中国での需要停滞も、電解稼働減により需給バランスは改善

<PVC>

- 米国品のアジア流入や新興国通貨安による影響が懸念されるなか、さらなる原料高で交易条件は悪化

ウレタン関連市況前提

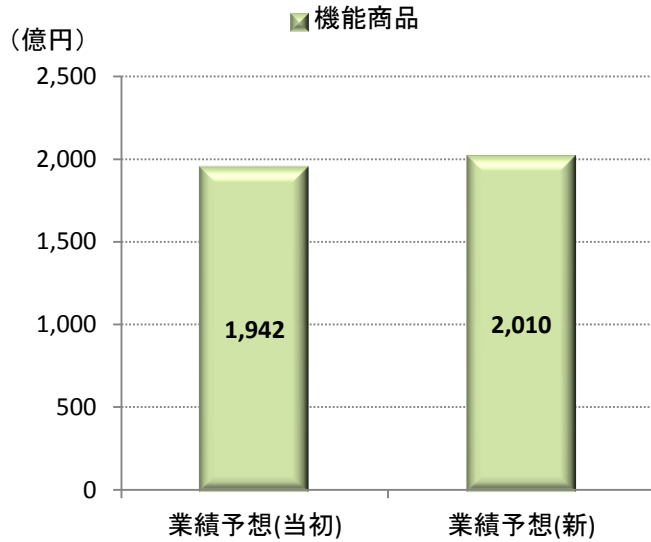
		業績予想	上期実績	通期新予想
MDI(モノ)	\$/t	2,500-2,700	3,216	2,700-2,900
スプレッド	\$/t	1,700-1,800	2,367	1,900-2,000
MDI(ホリ)	\$/t	1,800-2,000	2,058	1,700-1,900
スプレッド	\$/t	1,000-1,100	1,209	900-1,000
ベンゼン	\$/t	800-900	849	800-900

<MDI>

- PMDIは引き続き供給増による余剰感により価格は下落、MMDIは需要動向に不透明感があり価格軟化を想定

1-8. 2018年度通期予想／スペシャルティ

売上高



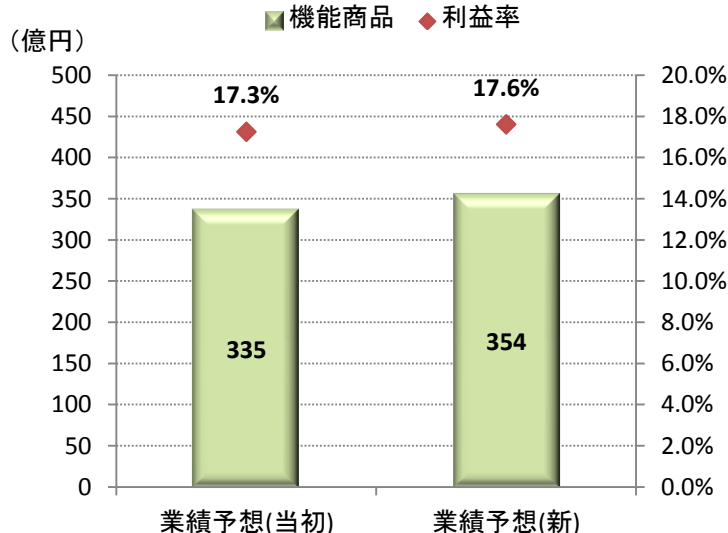
【戦略製品の拡販】

高機能材料：ハイシリカセオライト(新興国市場規模拡大、新グレード継続投入)、
 ジルコニア(差別化グレード継続投入)

有機化成品：エチレンアミン(ハイアミン化)、臭素・難燃剤(効率化投資)

バイオサイエンス：トヨパール(バイオ医薬向け拡販)、AIA試薬(項目拡充)

営業利益



<高機能材料>

- ジルコニア: 歯科材料・装飾・粉碎各分野の需要は旺盛
- ハイシリカセオライト: 顧客認定遅れ解消
- 石英ガラス: 半導体市場の拡大により需要は堅調

<有機化成品>

- エチレンアミン: 競合のプラント稼働安定によりEDA需給バランス悪化、ナフサ価格上昇により交易条件は悪化
 ⇒ ハイアミン化による利益最大化
- 臭素・難燃剤: 中国環境規制の影響や冬季での生産量減少を背景に市況は高値で推移する見込み
 ⇒ 短期的な市況変動を的確に把握し利益最大化

<バイオサイエンス>

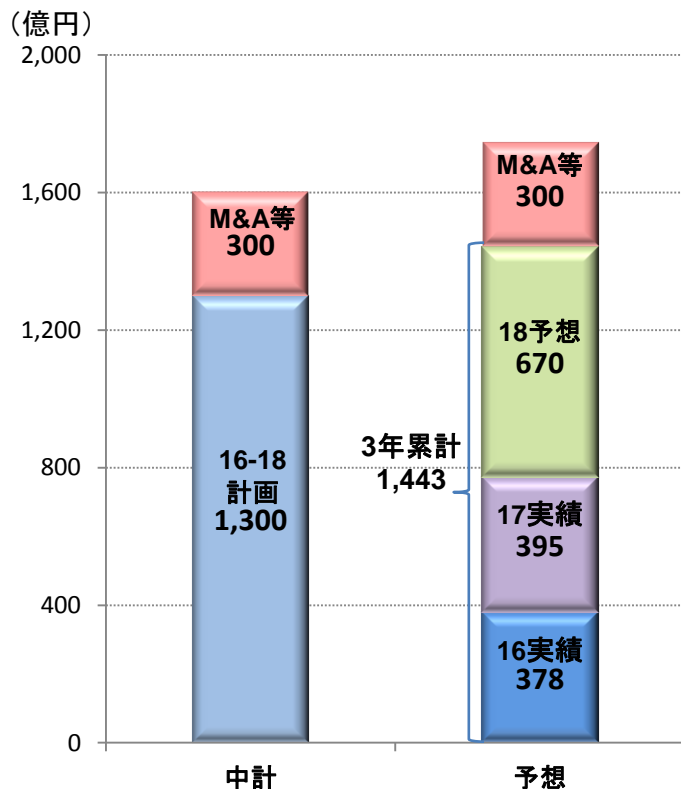
- 計測: GPC新機種の拡販、医薬精製向けトヨパールの拡販、新規カラムの上市・拡販
- 診断: AIA-CLの拡販、遺伝子検査装置の拡販

2. 設備投資・研究開発の状況

2-1. 投資状況

- 【コモディティ】 安定供給力と競争力の維持・強化、更新・効率化投資を集中的に実施
- 【スペシャリティ】 成長事業へ拡大投資
- 【M&A等】 研究ファンドへの投資実施、M&Aはバイオを中心に検討継続

16-18年度累計投資額



主な投資案件

<スペシャリティ>

- ハイシカゼオライト新設&増
【マレーシア 17年4月商業運転】・【南陽 19年春完工】
- ジルコニア能力増強
【四日市 17年3月商業運転】・【南陽 19年夏完工】
- AIA試薬の能力増強【東ソー・AIA 16年11月商業運転】
- トヨパール(分離精製剤)能力増強【南陽・18年秋完工】
- 計測・診断機器生産能力拡張【東ソー・ハイテック 18年秋完工】
- 遺伝子診断試薬工場新設【東ソー・ハイテック 20年春完工】
- 半導体関連、需要拡大対応

<コモディティ>

- ナフサ分解炉効率化&ガスタービン設置【四日市 20年春完工】
- 発電設備の効率化【南陽 18年冬完工】
- PVC能力増強【PRII 18年冬完工】
- 重曹能力増強【南陽 18年春完工】

<インフラ>

- 研究棟建替え【四日市 19年春完工・南陽 19年秋完工】

2-2. 研究開発

- 重点3分野 **ライフサイエンス** **電子材料** **環境・エネルギー** の研究開発に注力
- 研究インフラの刷新・機能拡充を推進、持続的成長に向けた開発体制
 - ・自動スクリーニング装置:ゼオライト合成の最適条件探索
 - ・インフラ成形装置:多層インフレーション成形が可能、PE差別化
 - ・高磁場核磁気共鳴装置:物質の構造・状態分析
- 産官学連携強化、研究ファンドへの投資、先端技術の情報収集・評価体制強化

事業領域	研究所	対象分野	開発テーマ
スペシャルティ製品	有機材料研究所	電材 環エネ	・有機EL用電子・正孔輸送材料 ・環境浄化用薬剤
	無機材料研究所	ライフ 電材 環エネ	・歯科用セラミックス材料 ・触媒用ゼオライト ・リチウム二次電池用材料
石油化学・ ポリマー製品	ファンクショナルポリマー研究所	電材 環エネ	・ディスプレイ用光学ポリマー ・高機能性ポリマー
	高分子材料研究所	ライフ	・医療用ポリマー材料
	ウレタン研究所	ライフ 電材 環エネ	・機能性ウレタン材料
先端技術創出	ライフサイエンス研究所	ライフ	・診断システム、試薬 ・医薬精製用分離剤
	アドバンストマテリアル研究所	電材	・電子デバイス用薄膜形成材料 ・半導体・LCD用石英ガラス

3. 事業戦略について

● 基本方針:ハイブリッド経営の深化

取り組むべき課題

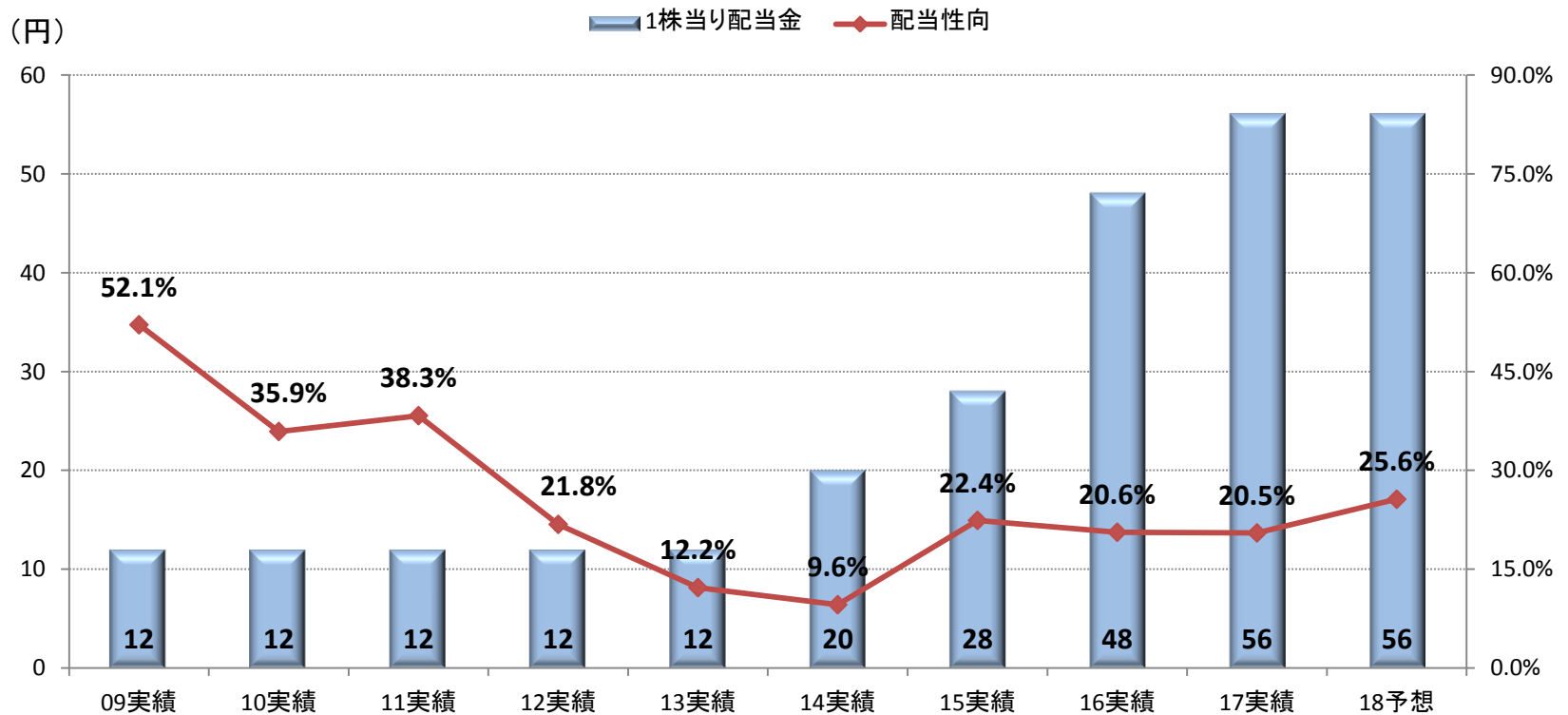
- **スペシャリティ事業の拡大・成長**
 - 高機能化・新機能付与など新規・次世代グレードの開発
 - 需要増に対応したタイムリーな能力増強
 - M&Aによる事業領域の拡大
- **次世代の新事業の育成、新製品創出の加速**
- **コモディティ事業の更なる競争力強化**
 - ビニル・イソシアネート・チェーンの基盤強化
 - 石化事業の高付加価値化 & 能力増強

4. 株主還元

4. 株主還元

- 安定配当の継続(期間業績・フリーCF・将来の事業展開等を総合的に勘案)
- 中長期的には、配当性向30%を目指す

2018年度配当額: 中間 28円、期末 28円



※2017年10月1日に2株を1株に併合、併合前の1株当たり配当金は併合後の金額に置き換え

《注意事項》

本資料の計画は、現時点で入手可能な情報に基づき判断した予想です。

従いまして、今後の国内外の経済情勢や予測不可能な要素等により、実際の業績は計画値と大幅に異なる可能性があります。

(完)